臺灣及び非律賓遠征の企圖」に於ては家康が支那貿易の仲介者たらしめんがため、兼ねて又其國とも貿易せんがため臺灣視察に有馬晴信を遣したる事及び元和元年村山東菴をして臺灣征伐を圖らしめし事、寛永七年には松倉重政の、同十四年には幕府自らの呂宋征伐の計畫ありし事を記す。「濱田彌兵衛」の項には彌兵衛の事業を叙し、天野屋傳說は採るに足らず、天野屋太郎左衛門とは恐らく彌兵衛部下の一人なるべしとし、「鎖國とその得失」に於ては日本の損失なりしと言ふ、從來の說に對する內田博士の鎖國により得たる利益もありと言ふ所論を參酌して、經濟上、政治上、文化上の三方面より得失を論じ、鎖國は一得一失にして比較計算せば結局損失の方大なるべしとせり、各項參考論文圖書を掲げ又寫眞版を挿入す（東亞堂發行、價二、五〇）〔中村〕

◎日本歷史圖錄　第三輯

本輯に於ては、藤原時代庶民の風俗として大阪四天王寺所藏の扇面古寫經の下繪より、市屋の圖を採りて彩色版とせるを初めとし、以下十五葉の寫眞版には、出雲大社に就いては本殿、樓門、拜殿、本殿平面圖、本殿模型等を收め、上古の鏡に就いては、人物畫像鏡、獸帶鏡、六鈴鏡、人物畫象鏡、神人畫象鏡、四神四獸鏡等を、藥師寺金堂藥師三尊に就いては三尊の外臺座の左右側、背圖等ありて、圖版の採用に注意せるを見るべく其外文彌麻呂墓誌及骨壺、前九年の役、中尊寺、東大寺南大門、後北條氏、南蠻人來朝、大阪陣、支倉常長、江戶時代前期の京都、江戶時代貴族の調度、西南の役、近古以後通用錢等に關するものありて、夫れ夫れに數種の圖版を按排せるは、既刊の二輯と同じく編者の勞を多とすべきものなり。尙附するに平易なる解說を以てすること前輯と同じ。（歷史參考圖刊行會發行、非賣品〔西田〕

◎最近支那經濟　善生永助著

本書は支那現時の財政及び經濟狀態に就き解說したるものにして全篇八章より成り財政と借款、銀行及金融、關稅制度、外國貿易、內國商業、製造工業、鑛山業、交通機關等の事實を詳かに記述し菊版五百五十餘頁凡て平易の文章を用ひ支那經濟財政の概念を得るに恰好の書なり（丁未出版社、價二、五〇）

◎殷虛卜辭中所見先公先王考　王國維著

龜甲河南省の殷墟より出土せし龜版獸骨文字の研究が其後益々進歩し學界を裨益しつゝある所なるが本書の研究は內藤博士の發表せられたる「王亥」を讀みて更に著者の試みたる新研究にして今其主要なる點を列擧すれば、卜辭中に貞燎于癸とある癸は史記索隱帝王世紀　山海經等に見ゆる冥にして卽殷の始祖たる帝嚳たるこ